

富士を見に行く その1 滝子山

実施日 平成17年11月3日(祝)
 天候 曇
 リーダー 涌井 良明
 参加者 斎恵美子、岡田みどり、古川美恵子、服部美千代、佐藤金治、岩井康子、小池述史、村上佐知子、馬場清士、吉田勝教、島本陳重、ゲスト3名 計15名
 コースタイム JR高尾駅(7.10~7.25 列車) 笹子駅(8.30~8.42) 林道分岐(9.28~9.33) 道証地蔵(9.45) 切石(10.28) 休憩(10.33~10.38) 作業小屋(11.20~11.30) 大谷丸巻道分岐(11.54~11.54) 南大菩薩縦走路(12.07) 鎮西ヶ池(12.12) 滝子山(12.25~13.00 昼食) 桧平(13.27) 最後の水場(14.10~14.26) 林道(14.54) 滝子山入口(15.03) JR初狩駅(15.35~15.41 電車) JR高尾駅(16.34)
 費用 JR・ホリデーパス 2,300円 大月 笹子 230円 / 初狩 大月 190円

計 2,720円

11月3日で完璧な天気を当てにしていたが、最近是好天神話も衰えつつあるようで好天率は減少気味で、まさにそんな文化の日の空模様の山行だった。

笹子にいつもより多めの好天期待のハイカーが下車したが、空はどんより、先程まで小雨がばらついていて、スッキリ、ハッキリは望めないようである。R20を大月方面へ戻り、吉久保入口バス停で左折、要所にある滝子山を示す案内板に従い徐々に山間部へ進む。寂隅尾根ルートに右に見送り林道分岐を直進する(道標あり)大きい堰堤を過ぎやがて道証地蔵に着く、ここから山道になる、僅かに下ってから登りになり、そのうちに左下にあったずみ沢に沿った登山道になる。沢音を聞きながら三條の滝、切石と通過、雰囲気は薄暗い沢筋の樹林



帯ではなく、明るさもあって好ましい気分である。左に曲沢峠への分岐を過ぎる頃から、周辺の色合いが一変、一気に赤、橙、黄、の世界に入り込む。それは見事な色付き具合で、雰囲気を更に盛り上げる滑滝の流れが相俟って、小スケールだが優雅な錦秋絵巻を創り上げていた。疲れも忘れ思わず見入ってしまう艶やかさだった。改めて日本の秋の山の素晴らしさを再認識させられた。今日来られなかった方、勿体無かったです。

二度目の曲沢峠への分岐を過ぎると、山腹の迂回路のような道から、やがて尾根を行くようになり、



落葉松が多くなって来る。きつい登りではなく明るく開けた道をゆっくり登る。楓や樺の立つ明るい分岐になり、左に大谷丸の山腹経由ルートを示している。更にゆるく登って

本来の南大菩薩の縦走路に出る、ここで右に折れ、程なく鎮西ヶ池に着く、鳥居は白縫神社といい、何でも源鎮西八郎為朝と白縫姫の伝説があるそう。ここを過ぎると初狩からの道の鞍部にする、右に最後の急登で山頂に着く、笹子から3時間50分予想より早く着けたのは嬉しかった。青空はなく、富士も裾野が見える程度で期待した、眺望は次の機会になってしまった。但し、北側の大菩薩方面は稜線の連なりが良い眺めである。狭い山頂には先客の数も多く、所狭しとお店が開かれていた。30数年前に何度か通った時、山頂で人に会ったことなどなかったが近年は、人気の山に出世したことが覗える。頂稜を僅かに進んだ所で我々もランチタイムの店開きで



ある。食後、写真を撮って下山にかかる。鞍部まで戻り、直進で初狩方面へ向う、三角点の東峰は知らないうちに通過、やや急な下りの後、

二分する道は右の新道(女坂)を下る、ジグザクを下り小広い桧平に着く、右から本道(男坂)が合流する。所々で鮮やかな色付きも楽しみながら下り、しばらくで尾根から離れ山腹を絡む分岐になる、直進へも踏まれているが、岩場に突き当たり廃道になっているようだ、ここはしっかりした道標があるので問題はない。九十九折れを下りベンチのある沢筋に出る。小池さん差入れの暖かい飲み物でしばしホッと一息である。ここからは、沢沿いになり、傾斜もゆるみ沢の渡り返しや沢身を通ったりしながら下る。沢が左下に離れ、山道も終わりになると林道へ、藤沢集落を抜け初狩駅着、お茶休憩を入れて2時間35分で下山、見上げた滝子山頂に先程いたのが不思議に感じられた。



それにしても今日も皆さんの脚は快調そのもの、煽られている様で、おかげで駅の階段が・・・、オーイテッー！ 何はともあれ、無事に下山、電車のタイミングが良すぎて駅反省会もできずに、松本方面に向う古川さんと別れ、高尾行きに乗る。例によって八王子で、寄り道して全て終了です。

皆様お疲れ様でした、今回は美しい紅葉に会えて良かったですね。また次回一緒できるのを楽しみにしています。アッ！！ 山行サブタイトルの富士山見てないから、また行かなくっちゃ??